

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

第4回会議

(令和2年 2月 3日)

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム
第4回会議

- 1 日 時 令和2年2月3日（月） 午後2時から
- 2 場 所 千葉市生涯学習センター 3階 特別会議室
- 3 次 第
 - (1) 開会
 - (2) 出席者紹介
 - (3) 主催者挨拶
 - (4) 協議 今年度の実践研究事業に関するまとめと次年度の方向性について
 - ア 協議1 研究の全体像における次年度の方向性について
 - イ 協議2 特別支援学校における取組について
 - ウ 協議3 さわやかちば県民プラザにおける取組について
 - (5) 連絡
 - (6) 閉会
- 4 配付資料
 - 資 料 1 : 研究の全体像における次年度の方向性について
 - 資 料 2 : 特別支援学校における取組に関する資料
市川大野高等学園「生涯学習講座」の取組
 - 資 料 3 : さわやかちば県民プラザにおける取組に関する資料
さわやかおんがく隊ワークショップの取組
 - 資 料 4 : 障害者の生涯学習推進フォーラムチラシ

令和2年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」全体イメージ

事業担当者
会議

特別支援学校に
おける学習プログラム開発

さわやかちば県民プラザに
おける学習プログラム開発

取組事例の提供
意見聴取
情報交換

取組事例の提供
意見聴取
情報交換

先行事例視察・研究

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

取組事例の提供
意見聴取
情報交換

生涯学習、教育、スポーツ、文化、福祉、労働等の関係機関及び障害のある当事者により構成し、先行事例研究等を検証するとともに、各機関と連携を図りながら障害者の生涯学習の充実に向けた取組を検討する。構成員を核とし、ネットワークを生かした多様な主体に向けた普及啓発を図る。

- 【委員】(予定)○コーディネーター1人 ※障害者の学齢期及び卒業後の学びに知識・経験の豊富な方
 ○特別支援学校校長会会長
 ○障害者就業支援機関代表
 ○生涯学習学識経験者
 ○障害者スポーツ関係者
 ○障害者支援関係団体代表
 ○千葉県社会福祉協議会代表
 ○特別支援教育課長
 ○障害者就労推進企業代表
 ○公民館長
 ○障害者福祉推進課長
 ○当事者等

共有 普及



市町村、特別支援学校、大学、関係機関・団体、企業との連携構築

支援相談窓口としての機能

各種関係機関・団体、企業(教育CSR)とのネットワークの構築により学習相談窓口としての機能を構成

- 学びの場
- 人材育成
- つながりづくり

フォーラムの開催

- 当事者参加型シンポジウム
- 実践報告
- コンサート等実施による幅広い層への啓発

各種会議・研修会発表

- 各種会議や研修会において本事業の取組を発表
- 研究成果の全体的な普及
- 学習プログラムマニュアルの作成・配布

成果物作成・配布

- コンソーシアムやコーディネーターの取組、学習プログラムの実践、普及啓発等の取組と今後の方向性について

県内全域における障害者の学びの場の拡大
担い手の育成

共生社会の
実現

市町村と連携した取組

令和元年11月22日実施

地域にある豊富な資源を知り、活用する



西部図書館
「訪問読書支援」



千葉県立美術館
「スクールプログラム」

市町村と連携した取組 & 市川大野高等学園以外での取組

地域にある豊富な資源を知り、活用する



サッカー・フットサル
VIVAIO船橋コーチ



バドミントン浦安
デフィオとの合同練習

VIVAIO
豊富ランド
フットサルパーク
豊富・船橋

舞浜体育館

剣道

柏井剣道会
柏井小学校・大柏小学校

地域の専門家に学び、
本物に触れることで
「生涯スポーツ&学習」
につなげたい!

卓球
市川市卓球連盟
OASIS 市川卓球教室
専任コーチ

卓球クラブ
TOMAX

テニス
市川市テニス協会コーチ

北市川
スポーツパーク

市町村と連携した取組 & 市川大野高等学園以外での取組

地域との
コラボ企画



平成30年度 柏井公民館主催
「陶芸教室」
会場：柏井公民館



令和元年度 柏井公民館主催
「草木染教室」
会場：市川大野高等学園

市川大野高等学園以外での取組

企業や
支援機関
との
コラボ企画

舞浜コーポレーション

金銭管理セミナー

- ・給与明細の見方
- ・お金の管理
- ・課金や詐欺被害

「カッコいいキャスト」

- ・困ったときの声のかけ方
- ・SSTリーダーの育成

ダンディズム・ フェミニズム講座

- ・ひげの処理
- ・トイレの使用方法
- ・女性特有の病気

SNS講座・消費者講座

- ・ドコモショップでの研修

企業・支援機関の講座を市川大野高等学園で開催
企業・支援機関の講座に本校職員&サポーターが参加

市川大野高等学園以外での取組

順天堂大学 パラスポーツ体験講座

シッティングバレーボール

ゴールボール



和洋女子大学
植草学園大学
聖徳大学

- ・千葉商科大学
- ・淑徳大学
- ・麗澤大学 等

大学との
コラボ企画

持続可能な取組を目指して

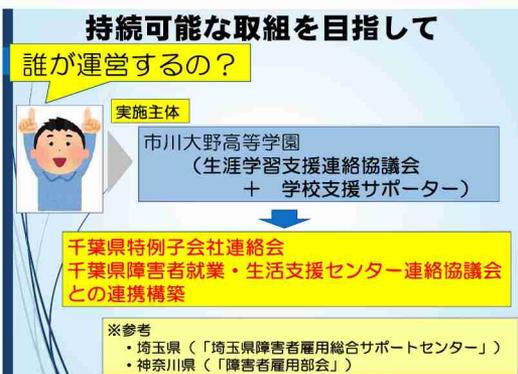
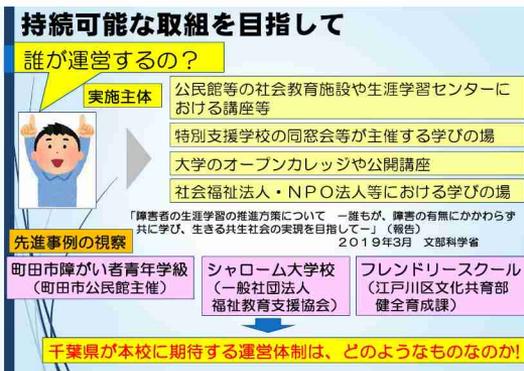
誰が運営するの？



どこで、何を
提供するの？



運営資金は？



持続可能な取組を目指して

どこで提供するの？

生涯学習支援連絡協議会

- ・公民館 ・ 自治会
- ・企業 ・ 大学
- ・なかぼつセンター 等



持続可能な取組を目指して

運営資金は？



LINE公式アカウント

企業のCSR

- ・千葉県特別子会社連絡会との連携
- ・「働きがい」と「生きがい」の支援
- ・定着支援に向けた連携協力

参加費の徴収



どのようにすれば経費を削減して周知できるか！

- ・無料プランの運用を開始
- ・講座案内に活用する

年間スケジュール

6月	「楽しむ」プロジェクト ～第1回 生涯学習講座～
	第1回 生涯学習支援連絡協議会
7月	在校生アンケート調査
8月	視察2 舞浜コーポレーション視察
	視察3 NPO法人障がい児・者の学びを保障する会
9月	「学ぶ」プロジェクト ～第2回 生涯学習講座～
11月	第2回 生涯学習支援連絡協議会
	在校生と「つながる」プロジェクト
	「楽しむ」プロジェクト ～第3回 生涯学習講座～
2月	12日(水) 第3回 生涯学習支援連絡協議会

今後の予定

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

学習プログラム開発！
(特別支援学校における取組)

ご静聴ありがとうございました！

千葉県立特別支援学校市川大野高等学園



「障害のある方の生涯を通じた
学びの充実をめざして」

さわやかおんがく隊ワークショップ

千葉県生涯学習センター・芸術文化センター
さわやかちば県民プラザ
事業振興課

「障害者の生涯を通じた学びのためのコンソーシアム」第4回会議 令和2年2月3日



「音楽を通して
生涯の学びを充実させる」

本日の流れ

1. 今年度のまとめ
2. 次年度以降の方向性



1. 今年度のまとめ

(1)練習成果の発表の場

特別養護老人ホームでの訪問演奏会

1月25日(土)
柏きらりの風



社会福祉施設での演奏会

- ・練習成果の発表の場
 - ・施設入所者だけでなく、地域の方も参観
 - ・今後の連携を見据えたつながりづくり
- ↓
- ・受講生の満足感・喜び・自信
 - ・地域とのふれあいの場
 - ・活動の普及・啓発



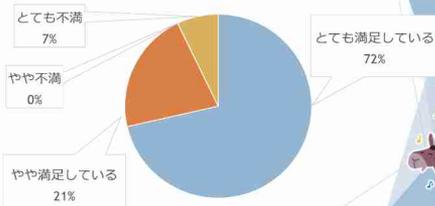
(2)アンケート調査

- ・さわやかおんがく隊受講生対象
(11月上旬に実施)
- ・14名から回答(全受講生17名)

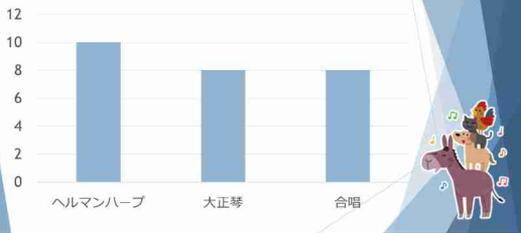
※1月25日(土)に
まとめのアンケート実施



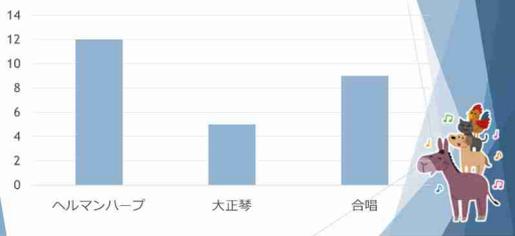
1. 活動内容に満足しているか



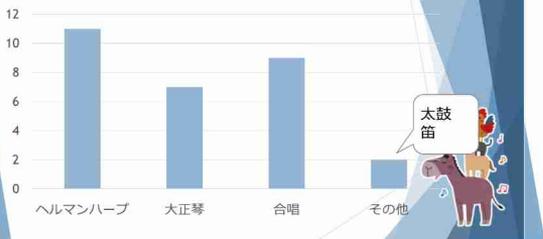
2. 好きな活動（複数回答可）



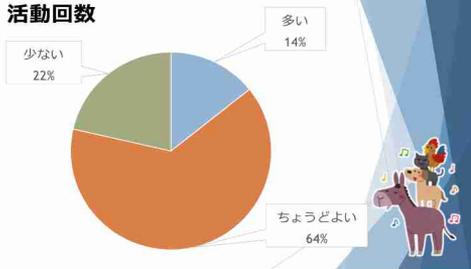
3. 上手になったこと



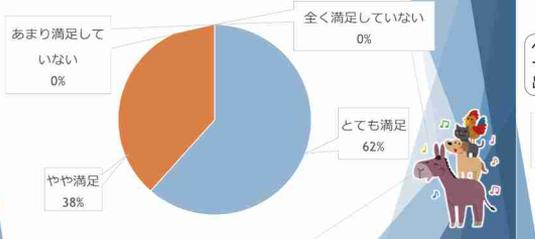
4. 来年やってみたいこと



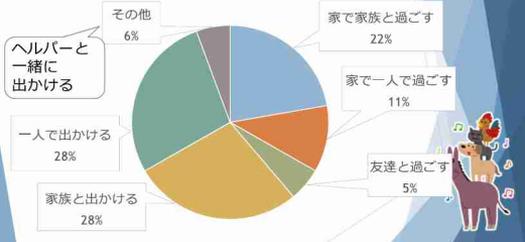
5. 活動回数



6. 今の生活に満足しているか

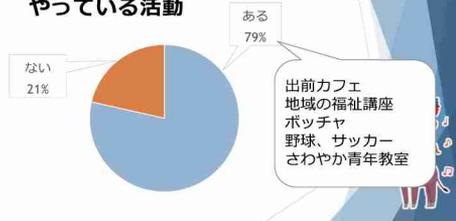


7. 休みの日に何をしているか



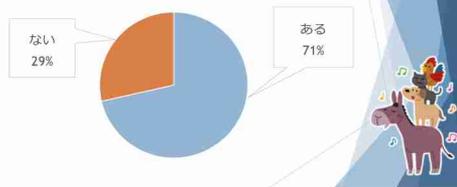
8. さわやかおんがく隊以外に

やっている活動



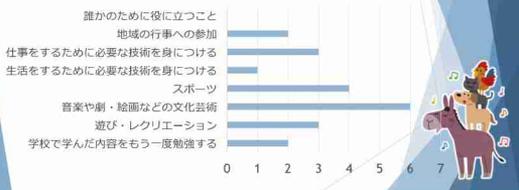
9. 学びたいこと、やってみたい

こと



9-2. 学びたいこと・やってみたいこと

たいこと



10 さわやかおんがく隊で学んだことを使ってもっとやってみたいこと

- ・友達を増やしたい
- ・高齢者の方とレクリエーション
- ・外での演奏会や発表会をやりたい
- ・メインテーマ曲をつくりたい

アンケート調査から（活動面）

- ・さわやかおんがく隊のどの活動でも満足度が高い
- ・達成感が次の活動への意欲に

今までの活動に加え、新たな楽器を取り入れることで達成感を感じ、活動の幅を広げる。

アンケート調査から（生活面）

- ・さわやかおんがく隊以外の活動への参加
- ・やってみたいこと（余暇活動）
- ・家族以外とのかかわりの少なさ

発表会や地域行事等への参加により他者との交流の機会を増やす

本年度の活動の振り返りや、今後の活動の方向性を考える機会について



活動	内容	成果
1. 1学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
2. 2学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
3. 3学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
4. 4学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
5. 5学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
6. 6学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
7. 7学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
8. 8学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
9. 9学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
10. 10学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
11. 11学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。
12. 12学期	音楽の授業	音楽の授業を通して、音楽の楽しさや楽しさを伝えることができた。



1. 今年度のまとめ

(3) 成果

- 運営・取組
- ・サポーターの養成
- ・自主活動日や自主練習時間の設定
- ・受講生に応じた支援
- ・受講生の役割



1. 今年度のまとめ

○連携

- ・特別支援学校教諭による合唱指導
- ・社会福祉施設での発表
- ・ボランティアコーディネーターとの連携



1. 今年度のまとめ

(4) 課題

- サポーターの確保とさらなる育成
- 近隣施設との連携
- 自主活動日のさらなる充実



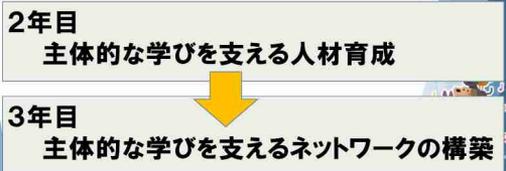
2. 次年度以降の方向性

(1) めざす姿

障害の有無にかかわらず、音楽を通してコミュニケーションを深め、人間関係の構築を図り、笑顔いっぱい学び合い、生活を豊かにしていく。

2. 次年度以降の方向性

(2) 2年目から3年目へ



2. 次年度以降の方向性

(3)運営・取組

- サポーターのさらなる人材育成
- 受講生の協働的な参画により自信を高める
- 演奏技能にかかわらず音楽を楽しむ
- おんがく隊への帰属感・連帯感の高揚



2. 次年度以降の方向性

(4)連携

- 障害理解促進や支援方法等の研修
- 学びの場の充実のためのサポーター拡充
- 発表の場の確保、活動の普及・啓発



音楽活動を入口として、学びの楽しさや喜びを知り、学びたいという気持ちを醸成し、様々なつながりにより視野を広げ、生活をより豊かにしていく。



隊長の言葉から

「また明日もお仕事を頑張りましょう。」

おんがく隊が生活の一部になることで、生活が豊かになり、明日からの活動への意欲づけとなる



「音楽を通して

生涯の学びを充実させる」



ご清聴ありがとうございました



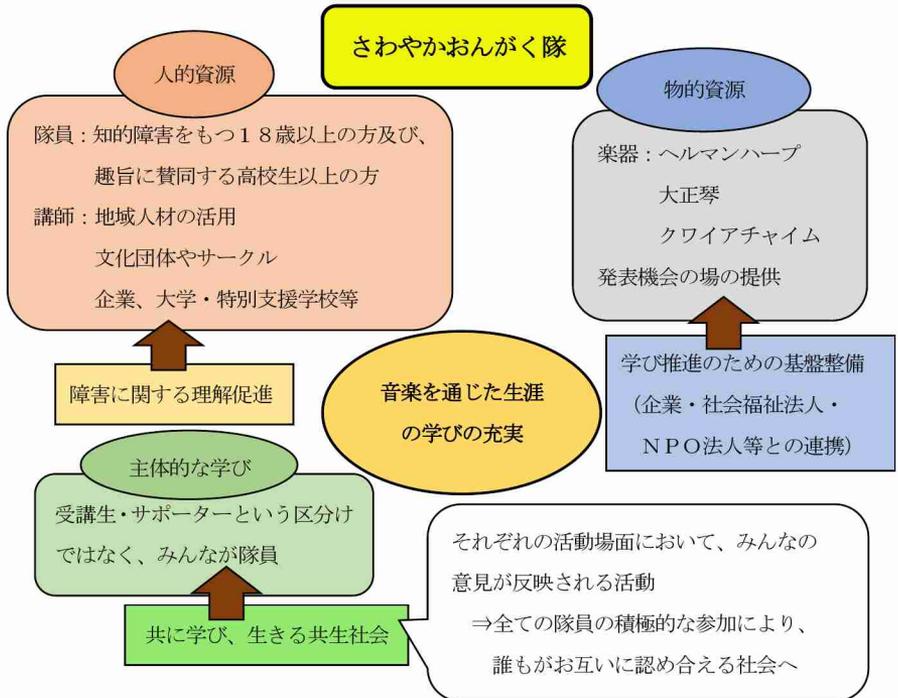
さわやかおんがく隊の今後3年を見通した展望について

1 めざす姿

障害の有無にかかわらず、音楽を通してコミュニケーションを深め、人間関係の構築を図り、笑顔いっぱい学び合い、生活を豊かにしていく。

これまでの受講生、サポーターの垣根をなくし、参加者全員がさわやかおんがく隊の隊員として参加する。「教える」「教わる」の一方向の関係ではなく、お互いに学び高め合う双方向の関係を目指す。運営には隊員全てが関わり、障害の有無に関係なく、参加者一人ひとりの思いや願いを自由に語り合い、みんなでつくり上げるおんがく隊を目指す。

さわやかおんがく隊に関わる全員が、音楽活動を入口として生活をより豊かなものにしていく中で、共に学び、生きる共生社会を目指す。



2 2年目の活動からみえてきた課題

- (1) サポーターの確保と育成・・・障害理解促進や学びの場の担い手の育成
- (2) 近隣施設との連携・・・発表の場の設定により周囲に認められる喜びを感じる

(3) 自主活動日のさらなる充実・・・障害に応じた学びの場の設定による活動意欲の向上

3 運営計画

	運営・取組	連携
1年目 (H30)	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者の自主性や仲間づくり ○学びや活動への新たな要求 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動とネットワークの広がり
2年目 (R1)	<ul style="list-style-type: none"> ○サポーター養成 ○自主活動日や自主練習時間の設定 ○受講生に応じた支援 ○受講生への役割 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校教諭の連携による合唱指導 ○社会福祉施設での発表 ○VC (ボランティアコーディネーター) との連携 ○障害者を雇用している企業との連携
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">主体的な学びを支える人材の育成</div>		
3年目 (R2)	<ul style="list-style-type: none"> ○サポーターのさらなる人材育成 ・自主活動日を共に楽しむ気持ちの醸成 ○受講生の協働的な参加により自信を高める ・受講生がピアサポーターとなり指導・支援する ○演奏技能にかかわらず音楽を楽しむ ・クワイアチャイム等の演奏が比較的簡易な楽器の導入 ○おんがく隊への帰属感・連帯感の高揚 ・テーマソング作成 ・おたより (活動報告) 発行 	<ul style="list-style-type: none"> ○障害理解促進や支援方法等の研修 ・特別支援学校教諭・大学教授等 ・教育振興部特別支援教育課 ・社会福祉施設従事者 ○学びの場充実のためのサポーター拡充 ・VCを窓口にして社会福祉協議会等と ・大学生や高校生への呼びかけ ○発表の場の確保、活動の普及・啓発 ・社会福祉施設や障害者就業・生活支援センター ・近隣自治会や県内市町村への情報発信
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">主体的な学びを支えるネットワークの構築</div>		
4年目 (R3)	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなが音楽を楽しみ、みんなでつくり上げるおんがく隊へ ・隊員全員が活動に参画する体制 	<ul style="list-style-type: none"> ○CSRの側面からの支援・援助 ・障害者支援協力企業の新規開拓 ○学校卒業後の学びへスムーズな移行
5年目 (R4)	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を明確にし、自己存在感を高める ○さらなる活動の広がり ・知的障害の方に限らない ・特別支援学校高等部生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校高等部や同窓会 ○地域イベント等への参加による満足感・達成感向上や普及・啓発 ・市民サークルとのコラボレーション

文部科学省 委託期間 (三年間)

音楽活動を入口として、学びの楽しさや喜びを知り、学びたいという気持ちを醸成するとともに、様々なつながりにより視野を広げ、生活をより豊かにしていく

千葉県マスコット
キャラクター「チーバくん」



障害者の



生涯学習イメージ
キャラクター「マナビ」

生涯学習推進フォーラム



日時

令和2年

2月16日(日)

13時から(開場12時40分)

16時まで

参加
無料

●誰でも参加できます

●要約筆記があります

●手話通訳があります

会場

東葛テクノプラザ

多目的ホール

(柏市柏の葉5-4-6)

国の動向等、説明

文部科学省 総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課
障害者学習支援推進室

実践報告

- ・特別支援学校における学習プログラム
～県立特別支援学校 市川大野高等学園「生涯学習講座」の取組～
- ・さわやかちば県民プラザにおける学習プログラム
～「さわやかおんがく隊ワークショップ」の取組～

発表

- ・さわやかおんがく隊によるヘルマンハーブ・大正琴演奏
- ・県立特別支援学校 流山高等学園音楽部との合同合唱

しゃべり場

「みんなで語ろう～共に学び、生きる社会を目指して～」

- ・生涯学習・社会教育担当職員、県立特別支援学校長、県立特別支援学校
同窓会関係者、ボランティア代表、本日の出演者から

◆参加申込は裏面のFAX送付票にてお願いします◆

[主催]千葉県教育委員会 [問合せ]千葉県教育庁生涯学習課

障害者の生涯を通じた学びの充実のためのコンソーシアム

第4回会議 会議録

令和2年2月3日（月）

午後2時～午後4時00分

千葉市生涯学習センター 特別会議室

出席委員（敬称略五十音順）

上條 秀元 鈴木 一郎 中澤 尊史 三浦 正志
向野 光 横山 紀武（代理） 古川 正美

出席事務局職員

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課 学校・家庭・地域連携室長
栗芝 博
同 社会教育振興室員 3名
千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 教育支援室員 1名
さわやかちば県民プラザ 副所長 田中 祥子
同 事業振興課員 2名
市川大野高等学園校長 田中 均宜

- 1 開会
- 2 出席者紹介
- 3 主催者挨拶 栗芝学校・家庭・地域連携室長
- 4 協議 今年度の実践研究事業に関するまとめと次年度の方向性について
 - (1) 研究の全体像における次年度の方向性について ※資料1参照
 - (2) 特別支援学校における取組について ※資料2参照
 - (3) さわやかちば県民プラザにおける取組について ※資料3参照

主 査 (向野委員) それでは、これから協議に入ります。本日は、年度末ということもあり会議やまとめが入っているということで委員の欠席が多く残念ですが、ここにお集りの皆様で、また一つの良い方向が出せればと思っております。

先週の金曜日に、近畿中国地区の文科省の事業の発表会に行っていました。内容的に当事者参加というところを前面に出した発表が多くありました。発表内容もさすが関西といった感じで、新喜劇を子供たちが前面に出てやっている、質の高いものを見せていただきました。所変わればと言いますが、様々な地区で文科省主催事業が行われておりますが、私たちが千葉県らしい一つの事業をこれからまた考えていきたいと思っておりますので、皆様のお知恵をたくさん拝借したいと考えております。

今回は、事務局であります生涯学習課、市川大野高等学園と県民プラザにおける取組について御説明いただき、皆様と発展的な議論をしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、まず初めに、研究の全体像における次年度の方向性について事務局の栗芝室長からお話をいただきます。

栗芝室長 【研究の全体像における次年度の方向性について ※資料1参照】

主 査 ただいま、県のこれからの取組、次年度への展望を含めて伺ったところですが、教育CSRの話が出ておりますが、先日の会議に事務局から参加された小泉班長から、様子をお聞かせください。

小泉班長 教育CSR第1回会議において、私たちの事業の紹介と次年度以降の方向性について説明させていただきました。参加企業は4社、加えて各学校の代表がお集まりいただいております、それぞれの立場で教育CSRについて現状と課題について話し合われておりました。第1回目ということもあり、我々の活動を知っていただくということを一番のポイントとして考えておりましたので、まずは事業の紹介をさせていただき、今後連携を進めていければと考えております。

主 査 今栗芝室長からお話をいただきまして、今までの会議の中で特別支援学校での学習プログラムとさわやかちば県民プラザでの学習プログラムを中心に話をしてきましたが、それらを結び付け、最終的にまとめていくこのコンソーシアム、あるいは課で行っている実践研究事業が将来に向かってどのような青写真を描いていくかということをご提案いただきました。

これまでなかった取組として、コンソーシアムの中に当事者が入ってくるということは、先日の会議の中でもやはり我々のみで話し合うので

はなく、当事者が入った方がよいのではないかという話がありましたが、ぜひコンソーシアムに当事者が入るといふ方向、また縦割りではなく横とのつながりということで、千葉県障害者芸術活動支援センターいわゆる健康福祉部局障害者福祉推進課が所管している事業と少しずつ連携を図っていくという提案がありましたが、そのあたりについてはいかがでしょうか。

上條委員

一つは市町村における取組をどう促進していくのか。今回、二つの研究が進められてきましたが、その研究の発展として市町村との連携、中には市町村主体の取組、また特別支援学校が主体となってそこに市町村が関わっているなど、いろいろな形があるかと思いますが、そういった形で入っただけだと市町村の取組の活性化につながっていくのではないかと思います。県民プラザの場合も市町村による音楽活動の取組との連携をどうしているのか。今回新たに芸術文化支援センターが入っていただくのは大変有意義であろうかと思いますが、例えば各地で行われている音楽活動と連携を進めて、県レベルでの発表や交流の機会をつくる取組はいかがでしょうか。芸術文化活動に限らず、障害者に関わる各市町村での取組を奨励または支援するとともに、県レベルでのネットワーク、つながり、交流をどうつくり上げていくのかと言うことが課題であると思います。

主 査

なかなか難しい部分で、県民プラザと特別支援学校は県の施設、しかし実際活動が行われているのは市町村のレベル、そこがなかなか降りてこない部分を県やコンソーシアムが中心となり、吸い上げて、発表の場をというご意見でした。

上條委員

それを構築していくために県や特別支援学校の役割は大きいと思いますが、方向性としては、障害者の団体や障害者自身が主体となって取り組む、それを支援していくという方向性を持つことが大切であると考えます。

主査

実際に市川大野高等学園では、地域の公民館との連携を行っておられますが、公民館活動自体が地域に広がっていくという点ではいかがですか。

田中校長

公民館でも地域の色々な活動を行っておりますので、そこをコラボさせていただくという取組をこれまでもやってきましたし、これからもやっていきたいと考えております。

主 査 各団体の活動をまとめるという中で、発表の場を設けていくのはどうかというご提案だったと思います。今回はフォーラムのプログラムの一つとして実践していきますが、それを独立させて各団体・グループがやっていることをまとめて行く方向があってもよいのではないかとという上條委員からのご提案でしたが、他にいかがでしょうか。

三浦委員 公民館では、障害者にかかわらず、多様な方々を対象として社会教育事業を行っております。しかし、障害者が対象となると、何を提供すべきか、コンテンツ選びに一番困っております。以前は特別支援学級の先生方にアドバイスをいただいて実践していましたが、現在は専門知識のない職員のみで行っています。いかによいものを提供したいと思っても、なかなかコンテンツを選びきれない、絞りきれない、正しいのか定かではないということもあります。そこで、例えば、県で「こういった事業はいかがでしょう」というコンテンツをつくり、いろいろな主体で紹介していく。それらを集約する組織やコンテンツが多数あると広がり期待できるのではないのでしょうか。

主 査 器はあるが、受け入れのノウハウが課題である。具体的なコンテンツをコンソーシアムが示してもらえると主体が取り組みやすいというご意見でした。コンテンツというところで考えるとスポーツも入ってくると思いますが、スポーツの取組を地域に広げていくという動きについてはいかがですか。

代理：古川 千葉県障害者スポーツ協会では、県からの委託を受け、昨年からコーディネート事業を行っています。具体的には、障害者がどこに住んでいても自ら楽しむスポーツを選択できる、指導を受けられるという事業を行っています。県内に16カ所あり、市町村で行うスポーツイベントの手助けなどしています。市町村によっては取り組む姿勢には差があり、障害者スポーツに対する理解にもかなり差があります。スポーツを広めようとしても、講師のつながりもないし、ボランティアが集まらないなどというときに、それらを紹介するなどしてノウハウの面で支援しています。今年で2年目ということで、3年間で、県内の全ての市町村に種まきをしていこうと事業に取り組んでいるところです。

主査 スポーツの方も広げていきたい、そこをつなぐのが障害者スポーツ協会であるというお話をいただきました。市町村とのつながりという部分で、社会福祉協議会はいかがですか。

鈴木委員 来年度に向けた事業展開のイメージを拝見しましたが、本事業が来年

す。

主 査

障害者が就労している企業の立場としてのお話がありました。学校もそうですが、いかに就労継続をしていくかという支援としての同窓会の在り方という形で、これまでは生涯学習という観点がありませんでした。働き続けるためにはどう支えていくか。しかしながら本事業、コンソーシアムで考えているのはもっと広く、障害があってもなくても一生学び続けるためにという、かなり広いところをターゲットとしています。そういう意味では、学校も企業もそのあたりの考え方を変えていく、さらに広めていくためには、どういう風にしていったらよいかということを考えていく必要があります。私も本事業に関わるまでは、卒業後の支援とは働き続けるためにどうやって支えていくかという視点しかありませんでしたが、もっと広く、人として死ぬまで学び続けるということを社会としてどう支えていくかという価値観の転換をしていかないと、この動きは広がっていかないということの中澤委員から指摘いただきました。

具体的には、学校は地域にはいろいろな教育資源があるということを学校教育の内容として教えていくということを今年から始められています。例えば地域には西部図書館があるよとか。美術館があり、こうしたことを学べるということを学校にいる間に学ぶこと、これを持続可能な形で続けていくためには、かなりいろんな課題があると提起されています。

田中校長

確かに、本校のような職業学科を設置している高等特別支援学校としては、障害者雇用で就労を目指している生徒のために日々続けています。しかし、長く働き続けるためにはどうしたらいいのかということを考えたときに、余暇や生活の潤いという視点が足りなかったのではないかと、スキルのなものへの支援に偏っていたのではないかと反省もあり、生涯学習という視点で、学ぶということの面白さや楽しさを自分で見出して、長く働きつづけることができる支援をしていきたいと考えています。先程御紹介した卓球競技で東京パラリンピックの強化指定選手に選ばれている卒業生が、「あるときには仕事に、あるときは卓球に集中する、その折り合いをつけていくことが今一番大事だと思っています」という素晴らしいお話をしてくれました。そういう生き方を支援していくことが大事なのではないかと、改めて卒業生から教えられた思いであります。たくさんの企業や支援機関、公民館等でも生涯学習に向けた取組はしていますので、まずはそれらの情報提供をすることも大事だと思っています。そして、今、本校が「学ぶって楽しいことだね」ということに気づけるような教育課程になっているのかと考えると、まだまだ改善しな

ければいけないことがあるのではないかと考えています。今回、研究指定を受けて、生涯学習をキーワードとして教育課程を再編成していかなければならないという点に気づかせていただいたことに感謝しております。まだまだ足りない点がたくさんありますので、たくさん御指摘いただき、よりよい学校をつくっていきたいと思っています。

主 査 生涯学習への考え方の転換という話がありましたが、以前は「障害者は卒業したら学ぶのは無理だ」というような空気が強く、働き続けることだけを支援する傾向にあったかと思いますが、「生涯にわたり学び続ける」という価値観は学校において変わりつつありますか。

田中校長 学校は変わりつつあると思います。このテーマをいただいて2年間取り組んできて、そういうことが大事だと考えています。「知的障害があるからできない」と決めつけているところがやはりあったのではないかと、しかしそれは違います。たとえ障害があろうとも「学びたい」「できるようになりたい」という気持ちはみんながもっているということの教職員の理解は、まだまだ不十分ではあります。そういう意識が変わりつつあります。もっともっと教職員の意識改革をしていかないと、授業も良くなっていかないですし、生涯学習の取組も充実したものになっていかないのではないかと考えています。正直、現段階では不十分ではあります。引き続き、頑張っていきたいと思っています。

主 査 これまでも企業では、就労継続という面での支援はあったかと思いますが、生涯学習というところでの支援の動きについてはいかがですか。

中澤委員 正直申し上げますと、まだそこまでいっている企業は少ないと思います。例えば、神奈川や埼玉では、ティーボール大会を盛んに行っています。千葉には全くその風土はない。そういったスポーツをベースに企業全体が盛り上がっています。それは就労継続のスキルとは関係なく、まさにスポーツを通じて生きがいややりがいづくりを企業が支援しているよい事例であると思います。私どもの会社でも、特別支援学校の卒業生が入社して、運転免許を取りたいという気持ちが強く、それぞれのニーズに応じたフォローをしています。全てが働くためのスキルアップではなく、余暇や人生の豊かさにつながるものも会社としてフォローとしていかなければいけないという雰囲気はかなりあると思います。

主 査 学校においても、企業においても学びに対する考え方が変わりつつあるという心強いご意見をいただきました。これらをどうやって根付かせていくかということが課題になろうかと思っています。

それでは、地域における生涯学習の観点から、さわやかちば県民プラザにおける取組について、戸辺副主査、よろしく申し上げます。

発表者 【プラザ さわやかおんがく隊における取組の説明 ※資料3参照】

(戸辺副主査)

主査 ありがとうございます。具体的な、さわやかおんがく隊の取組についてまとめていただき、また次年度への課題が出てきたところですが、皆様から御質問や御意見があれば、いただきたいと思います。

鈴木委員 アンケートにもあったように、地域行事に参加したい、スポーツをやりたい、日頃交流しているのは家族が多いというところから、他の健常者と交流がしたいのではないかと思います。千葉県社会福祉協議会では、千葉県教育委員会が指定した福祉教育推進校と地域の社教と一緒にあって子供たちの福祉の考え方を育んでいこうと取り組んでいます。例えば、高齢者の疑似体験、高齢者施設の訪問などをやっていますが、これらの活動の中にさわやかおんがく隊の取組を取り入れ、障害者と一緒になって音楽に取り組む、これはさわやかおんがく隊に限らず、特別支援学校においてもそうですが、今後は地域に住んでいる子供たちを含めて、一緒に障害者がスポーツをしたり、文化活動をするなどの取組をしたりしていく必要があるのではないのでしょうか。どうしても障害者は閉ざされた空間にある傾向が強くあります。子供たちから、地域には多様な人が住んでいる、そういった人も一緒に地域社会を作っていくという実践をしていく中で、県社教としてもそういった形でお役に立てるのではないかと考えます。地区の社教でも、事業計画を立てる中で悩んでいると思いますので、社教や学校担当課に問い合わせいただき活用していただきたい、参考までにお話しさせていただきました。

三浦委員 堀江公民館では、きぼう青年学級という知的障害者対象の事業を行っております。知的障害者に対する支援は比較的やりやすい面がありますが、身体障害者の方々についても社会に出て学習意欲がなくなることはないと思うので、そういった方々に対する取組も考えていかなければならないと思いました。公民館では、いわゆる障害者という垣根を設けずに講座参加者を募集するのですが、身体障害者の応募はほとんどありません。「聴覚障害者のための」という形でやったとしても、閉鎖的に終わってしまう。できれば、そういった方が外に出て、たくさんの方と交流し、学べる環境を作っていく必要があると考えております。

戸辺副主査 さわやかおんがく隊においては、募集時は知的障害のある方に限定しておりますが、いざ参加者を募ってみると知的障害に加えて全盲の方や

手に障害を持っている方もいらっしゃいます。そういった方々でも、個別の支援を行うことで一緒に活動ができておりますので、来年度は障害の対象を広げていくことも考えております。

主 査

障害種別で考えると7割は知的障害が占めるので、人数的に知的障害の方が多くなっていますが、おんがく隊ではそれに限らず、次年度は障害種別を広げるというお話がありました。また、自主練習で参加者の様子が変わってきたという報告がありました。自分たちでどんどんやりたくなってくる、生きがいに becoming という、障害の有無にかかわらず、サポーターも一緒に自主的に活動している様子が大変良いと思います。これをどうやって広げていくかというところが難しいところです。例えば、公民館等の地域にどうやって根付かせていくか、コンテンツの一つのモデルとして、内容だけではなく支えるサポーターの養成や人集めなどのノウハウを示していただくと、県内の地域の皆さんが取り組みやすいのではないかと思います。

県社教では、ボランティアの養成や紹介についてはいかがですか。

鈴木委員

ボランティア活動の支援については、研修会等をやっております。各市町村においてもボランティアセンターができておりますので、ボランティアの養成は進んでおります。

さわやかおんがく隊においては、サポーターの確保に苦慮されているようですが、先程申し上げましたとおり、福祉教育という観点から小中高校生の子供たちが一緒に音楽活動をすることで、その子たちがサポーターを担っていくという、両方にとってウインウインの関係をつくっていく取組を進めていただきたいと思います。

主 査

具体的に学校とのつながりをつくっていければと思います。先日、柏の教育実践発表会において、障害のある当事者だけでなく、普通学級の生徒が3人も来て発表してくれました。学校時代から障害のある方と自然に関わることは、地域に根付いていく大きな力になるのではないかと、学校との連携も今後の可能性が広がってくると思います。結果的には、インクルーシブ教育につながっていくのではないのでしょうか。

全体をとおして、来年度の方向性として連携やネットワークづくりが大切になってくるというお話がありました。ネットワークの内容としてはコンテンツをしっかりと示すこと、それを流していく方法、また人材の確保も必要である、そして卒業後も学ぶ場があるということをお子たちに学校の中で教えていくことも必要である、さらには、働いている人々への学ぶ場を会社として確保していただくことなど、これからの学びを支える社会の役割が明確になってきたのではないかと思います。

今後大切になってくるのは、それぞれの実践が具体的になってきた中で、コンソーシアムを中心としたこの場が全体へのつなぎの核としての役割を担っていくべきかと思います。社教、公民館、企業、教育等それぞれの関係者の方がより密接につながっていけるような、要としてのコンソーシアムの役割が明確になってきたかと思います。

それでは、全体をとおして、来年度の方向性についてのご意見やご質問があればお願いします。

上條委員 冒頭で提案させていただきましたが、市川大野高等学園のような取組を他の特別支援学校にも広げてほしい。そういう意味では、特別支援学校同士の研修や情報交換の機会を利用して、拡大を図っていただきたいと思っています。そういった方向性でなされているかもしれませんが、現状を含めてお話を伺いたいと思います。

田中校長 市川大野高等学園として、研究指定を受けて、本校なりに一生懸命取り組んできて、本校の実践を多くの場で発表させていただいてはおりますが、今後どのように広げていくかということについては大変難しさを感じています。「市川大野高等学園のような軽度の知的障害の学校だからできるのではないか」というような御意見もあります。本校としては、できる範囲のことで取り組んではおりますが、一学校としての範疇を超えていると思いますので、今後最後のまとめとして、特別支援教育課や生涯学習課など行政として、これからどのように広げていこうとお考えなのか御意見をお聞かせりたいと思っています。市川大野高等学園として、3年目をどのように歩んでいけばよいかという御指導も含めて、御意見をお伺いできれば幸いです。

主 査 県の研究指定としての取組として、研修会等でも発表されており、他の学校にも広まっているとは思いますが、校長会を通じてさらに啓発していければと思っています。

上條委員 各地域における障害者支援の活動や取組の情報を収集して、それを一つの手がかりとして、今後の連携や広がりが見えてくるのではないかと思いますので、今後県として取り組んでほしいと思います。

主 査 先程、事務局から提案されていた支援窓口や集約していく場を作っていく、このコンソーシアムの場がその役割を担っていくということは、来年度の課題になると思います。ボランティアやコンテンツなど、つまり、このコンソーシアムや県の生涯学習課に相談すれば、学びの資源を紹介してもらえるような場にしていくことが来年度の課題になってくる

のではないのでしょうか。

事務局

就労ではなく、就学している在校生のときからこそ卒業後の学びについて考える、まさに市川大野の取組はとても大切であると考えております。その中で、生涯学習の学びや余暇の過ごし方についての学習経験が、近い将来、就労したときの仕事の定着や安定に結びつくのではないのでしょうか。

次年度は、障害者の生涯学習支援窓口としての機能を構成していく上で、窓口として、あらゆる企業や福祉の関係機関、団体とつながり、組織体をつくっていききたいと考えております。そのために、次年度はコンソーシアムに当事者にも加わっていただき、生の声をお聞かせ願いたいと考えております。

田中校長

今年度、生涯学習課として、先進事例の視察先を3カ所選定され、コンソーシアムの委員の方々と一緒に私も行かせていただきました。それぞれ運営主体が違う特色のある事例あえて選択して計画されたのではないかと思います。いろいろな運営主体が特色あるすばらしい取組をしている中で、千葉県はどのような方向を目指すのかという青写真を描いていらっしゃるのか、行政としてどこまで本腰を入れて取り組んでやっていたのかについて、是非お示しいただきたいと思います。市川大野高等学園として、企業や福祉関係者の皆様の御支援をいただきながら、できる範囲で一生懸命取り組んではおりますが、限界を感じているところも事実です。

主 査

今後の方向性は、この事業を通じてしっかりとした事業の推進主体がどこかにないと継続は難しいという、2年目が終わったところの宿題、ある意味では成果として挙げていくことはできるかと思います。そういう意味で、ネットワークづくり、あるいはつながるという部分をしっかり取り組んでいかなければいけないというのがこのコンソーシアム全体での意見であると思います。それをつないでいくものをつくっていくのは誰を明確にしていくことを今後の宿題としたいと思います。

また、今年度の成果として、主体を明確にして、誰がどのように担っていくのか、誰がどこまで関われるのか、そういったことを整理していくことを来年度の課題とさせていただきます。

それでは、主体を明確にしていくこと、つなぐというところを具体的にしていくことを来年度の課題として、今年度4回のコンソーシアム会議のまとめとしたいと思います。お時間も参りましたので、進行を事務局にお返しします。

令和元年度
学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
まとめ

令和2年3月

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課
〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号
電話 043-223-4071